

規範意識の向上に関すること

この表は、4ページ「3 質問の構成」を再掲し、本節で述べる領域等の範囲を で示したものである。

領域	項目数	質問内容(児童生徒)	質問内容(保護者)
規範意識の向上に関すること	児童生徒 5項目	保護者や地域の人からしかられたり注意されたりしたことの体験	自分の子どもや自分の子ども以外の子どもを、しっかりと注意したりしたことの体験
	保護者 3項目	ルールやマナーを守ろうとする意識を高めるためにどうしたらよいと思うか	子どもたちのルールやマナーを守ろうとする意識を高めるためにどうしたらよいと思うか

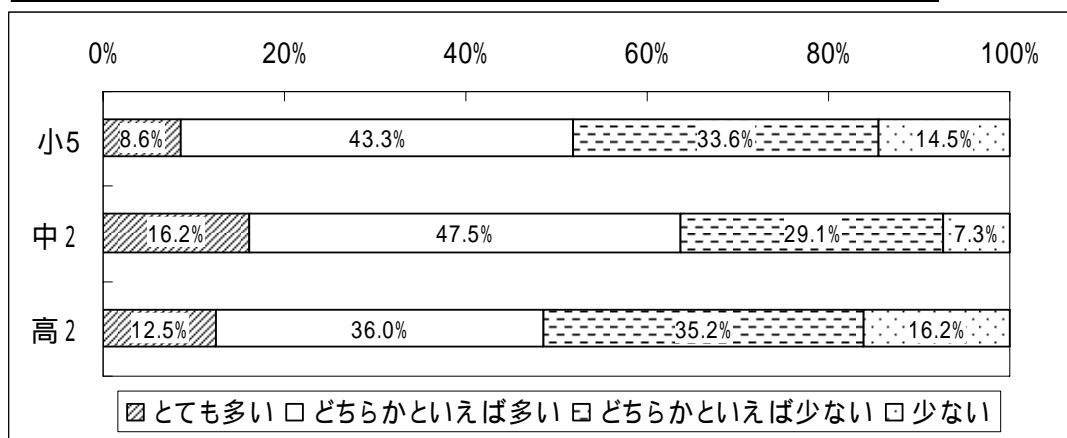
では、児童生徒と家族や地域の人とのかかわりについて、児童生徒には保護者や地域の人からしかられたり注意されたりしたこと、保護者には子どもをしかったことなどの体験を質問した。

また、今後、子どもたちのルールやマナーを守ろうとする意識を高めるためにどうしたらよいと思うか、その考えを聞いた。

1 家族からの注意の頻度とそのときの意識

児童生徒 質問(1) 「あなたは、家族から注意や意見をされることが多いですか。」

		とても多い		どちらかといえば多い		どちらかといえば少ない		少ない		回答数
		回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	
小5	男	22	11.3%	85	43.6%	57	29.2%	31	15.9%	195
	女	10	5.6%	76	42.9%	68	38.4%	23	13.0%	177
	計	32	8.6%	161	43.3%	125	33.6%	54	14.5%	372
中2	男	24	14.0%	82	47.7%	49	28.5%	17	9.9%	172
	女	34	18.3%	88	47.3%	55	29.6%	9	4.8%	186
	計	58	16.2%	170	47.5%	104	29.1%	26	7.3%	358
高2	男	20	9.8%	67	32.7%	76	37.1%	42	20.5%	205
	女	28	15.7%	71	39.9%	59	33.1%	20	11.2%	178
	計	48	12.5%	138	36.0%	135	35.2%	62	16.2%	383

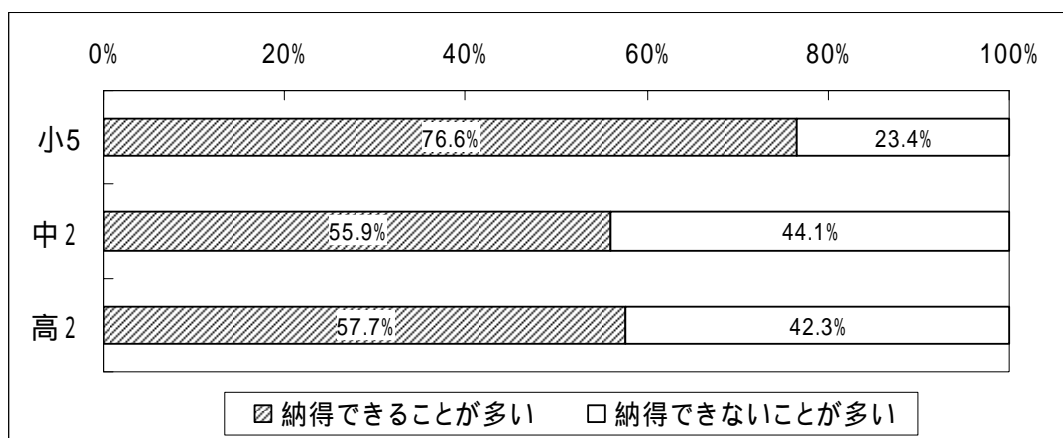


〔結果から見られる特徴〕

- ア 注意をされる頻度について、小5と高2はほぼ同じ割合で回答しており、「多い」（「とても多い」と「どちらかといえば多い」を合わせた割合）と「少ない」（「どちらかといえば少ない」と「少ない」を合わせた割合）が約半分ずつである。
- イ 中2では、「多い」と「どちらかといえば多い」を合わせると6割を超えており、小5、高2に比べて、注意されると感じている割合が高い。

児童生徒 質問(2) 「家族から注意や意見をされたとき、納得できることが多いですか、納得できないことが多いですか。」

		納得できることが多い		納得できないことが多い		回答数
小5	男	149	76.4%	46	23.6%	195
	女	136	76.8%	41	23.2%	177
	計	285	76.6%	87	23.4%	372
中2	男	98	57.3%	73	42.7%	171
	女	101	54.6%	84	45.4%	185
	計	199	55.9%	157	44.1%	356
高2	男	119	58.0%	86	42.0%	205
	女	102	57.3%	76	42.7%	178
	計	221	57.7%	162	42.3%	383



〔結果から見られる特徴〕

- ア 小5の76.6%が「納得できることが多い」と回答しているのに対し、中2、高2ではその割合がそれぞれ55.9%、57.7%となり、「納得できないことが多い」が増えている。

2 しっかりと注意したりしたことの体験（保護者と自分の子どもとの関係）

家庭でのしつけについて、児童生徒、保護者にそれぞれ下のような質問をした。

児童生徒 質問(3)	今までに、家族からしかられたことで反省できたことはどのようなことですか。
保護者 質問(1)	今までに、あなたのお子様をしかったことで、お子様自身が反省できたことはどのようなことですか。また、どのようなしかり方や言葉が効果的だったと思いますか。

(1)児童生徒への質問：「家族からしかられたこと」

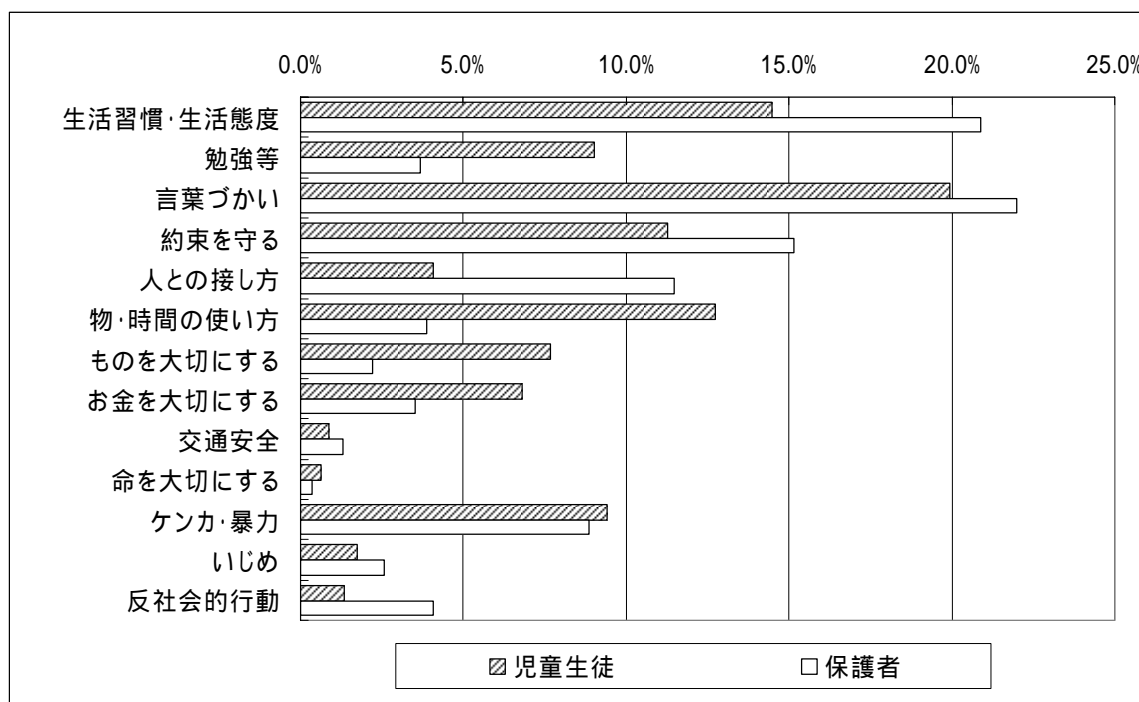
保護者への質問：「子どもをしかったこと」について

児童生徒は、1124名のうち829名が、保護者は1041名のうち493名が、記述により回答した。

記述のすべてを掲載することはできないので、回答の内容を分類し、下の表およびグラフに示す。一人の回答でも複数の内容が含まれているものは、それぞれの項目に別々にカウントしている。また、下記の分類に当てはまらないものは、省略した。

主な内容	児童生徒	保護者
生活習慣・生活態度 起床・就寝、整理整頓・片付け、自分のことは自分でする・言動への責任、自己中心的な態度、投げやりな態度、道徳、礼儀、マナー など	117	113
勉強 勉強、宿題、成績 など	73	20
言葉づかい あいさつ、うそ、悪口、謝る、お礼を言う、きたない言葉、目上の人に対する言葉づかい など	161	119
約束 約束、時間、家の手伝い、校則などのきまり など	91	82
人との接し方 友人関係、親・家族への態度、機嫌が悪い など	33	62
物・時間の使い方 ゲーム、TV、携帯電話、パソコン など	103	21
ものを大切にする 物の大切さ、捨てる、なくす、壊す、 など	62	12
お金を大切にする お金の使い方、無駄遣い、携帯電話等の料金、貸借 など	55	19
命を大切にする 命の大切さ、動植物の飼育 など	5	2
交通安全 路上での遊び、歩行の仕方、自転車・バイクの乗り方 など	7	7
ケンカ・暴力 兄弟ゲンカ、友達とのケンカ、暴力 など	76	48
いじめ いじめ、意地悪、仲間はずれ、からかい、差別 など	14	14
反社会的行動 喫煙、飲酒、万引き、窃盗、家出、夜遊び など	11	22

グラフは、回答数の合計を分母とし、それぞれの内容の回答数の割合を示している。



〔結果から見られる特徴〕

- ア 児童生徒には、「しかられたことで反省できたこと」を質問したが、単に「しかられたこと」を回答しているものが多い。
- イ 「生活習慣・生活態度」に分類した回答の記述内容をみると、児童生徒は具体的な行為について回答しているものが多いが、保護者はその行為の背景にある意識や態度についてしかっているものが多い。
- ウ 「ケンカ・暴力」では、小5では「兄弟ゲンカ」が多いが、学年が上がるにしたがって友達など周囲の人たちとのものが多くなっている。
- エ 「物・時間の使い方」では、ゲームやテレビ、携帯電話などに関するものが多い。その「物」自体の使い方について注意している場合と、それによる時間の浪費などを注意している場合などが含まれる。また、「お金を大切にする」に関する注意でも、携帯電話の使用と関係しているものが多い。
- オ 数は少ないものの、「喫煙」、「万引き」、「夜遊び」などの、反社会的な行動に関する回答があった。

児童生徒の回答の中には、しかられたことではないが、次のような記述があった。すべての場合に当てはまるわけではないが、子どもの率直な意見として、子どもをしかったり注意したりするときの参考になるのではないだろうか。

- ・ 一方的にしかるのではなく、話を聞いてくれるときに反省できる。
- ・ しかり方が理不尽なので反省しない。
- ・ 大人の言うことは矛盾ばかりだ。だから反省できない。
- ・ 注意というよりも、一方的に怒られている感じなので、あまり反省できない。

(2)保護者への質問：「どのようなしかり方や言葉が効果的だったと思いますか」について

保護者からの回答のうち、いくつかを内容ごとに分類し紹介する。

話を聞く・話し合う

まず理由を聞いてからしかること。頭ごなしにしからず理由を聞いてあげればお互い冷静になれるし、子どもも考える余裕があると思う。
子どもの気持ちをよく聞き、その気持ち・考え方をかえていくよう、いろいろな考え方があることを話す。問題から逃げるのではなくて前向きに考えられるように話すようにしている。あくまでも子どものことを信じたうえでです。
愛情をもって全部うけとめた上で注意する。一方的ではなく子どもの話もちゃんと聞いた上で話してみる。
しかるのではなく、よく子どもの話を聞き子どもの気持ちを理解し、親の意見を言い、納得のいくまで話をします。
頭からしかるとよけいに反抗的になり逆効果になることが多く、なかなかできないのですが、感情的にならず、子どもの言い分も聞き、一緒に考えたいです。
たまたま世界中のいろいろな子どもの生活を放送する番組があったので、一緒に見て、その後いろいろ話をしていたら、自分のわがままさがわかった。
きちんと対座して、納得いくまで静かに話をするようにする。
愛情をもってしかる。しかりっぱなしにしないで、子どもとコミュニケーションをとる。
感情的にしかるのではなく、優しく言い聞かせるような(ときには子どもをほめる)言葉が効果的だった様な気がします。
一方的に怒るのではなく親の正直な悲しかった気持ちをその子の年令で理解できる言葉を選んで話す。
うそをついたときは「お母さんにしかられたくなかったんだよね、しかられると思って正直にいえなかったんだよね」と子どもの気持ちをくんであげてから、「でもね」とうそをつくことの何がいけないか話してました。涙を流して一言一言よく聞いてくれました。しかるとき最後にいつも言う言葉です。「あなたを愛してるから、かわいいから、お母さんしかることが悲しくなるよ。でも大切なことだからこうやって言わなきゃね。」抱きしめて話してます。学年は大きいですが抱きしめることで、子どもの反応(私を抱きしめ返してくる強さ)から本当に反省してくれているかということがわかる気がします。
話をよく聞いて、抱きしめてよく話し合ったため!?
まずやさしく抱きしめてやり、同じ立場で一緒に悩んで話を聞く。そのあとでアドバイスする。
抱きしめて、「大好きヨ!!でも絶対してはダメよ!」と心から子どもにやさしくうったえた。「うそをつくとなんか信用してもらえないよ。お母さんもうそをつき、信じてもらえなかったことがあるよ。」と自分のことを話した。

厳しくしかる・真剣にしかる

親も真剣になってしかる必要性があると思う。あいまいなしかり方や、中途はんばなしかり方は子どもも受けとめ方に真剣さがなかった。

言葉づかいに関してはその都度気が付いたら注意してあまりしつこく言うより、そのときどきにバシッとしかった方が、本人にはいいかなと思っています。

効果的な言葉やしかり方や言葉はそのときの言動で、強くしかることもあるし褒めるときもあるので親が子のために本気で思いやることが、効果的なしかり方だと思います。

ダメはダメで絶対に許さないということで話し合う。「大切な宝物である」ということを常に話す。夫は最後にとっておく。夫がしかったときはだまっているよう心がける。

諭す・わけを話して聞かせる

子どもの父親は技術職人で、その仕事に対して侮辱することを言ったのでわかりました。今までお父さんが苦労したことやがんばって来たことをいろいろ話しました。そして何でも口に出して言うてはいけないことがわかったようです。反省し、お父さんに「ごめんなさい」と謝っていました。

喫煙に対して、『百害あって一利なし』と、体にはぜったい良くないことを話してきかせました。一人でなく何人かでしていたようなので、仲間意識というのはあるけど自分の気持ちはしっかりもって「NO」と言える人にならなくてはということを行いました。

小学4年の頃、カッターを自分のお腹にさせば学校へいかずに嫌なことからにげられると思ったみたいです。

命の大切さ、親の思い”宝”だと言いました。やっぱり子どもは親にとって生きがいだからと。死んでも楽にはならないということ、今は元気で頑張っています。

一緒に謝る

とにかくいたずらをしてはいけないこと、人に迷惑をかけたりしてはいけないということを使いかせて、いっしょにそのお宅にあやまりに行きました。親も頭を下げるという手本を目の前で見せることもよいのではないのでしょうか？

自分に置きかえて説教し、相手の家に行き一緒にあやまった。

自分はいじわるではなく軽い気持ちでしたことでも、された方はどんなに悲しい気持ちになるかを話し、一緒に友人宅に謝りに行きました。「お母さんも悲しいな」って言ったら、素直に「ごめんなさい」が出てきました。

ほめる・感謝する

親が「お手伝いをして」と求めるばかりで、子どもも心よくお手伝いをしないというときもありましたが、逆に一つ手伝いをしてくれるたびに、親が「どうもありがとう。たすかるわ」と子に言うように心がけました。子どもも気分良くお手伝いをしてくれます。

自分の体験話や、最後に必ずあなたなら出来るとほめる(自信をもたせる)。

3 しっかりと注意したりしたことの体験（保護者と自分の子ども以外の子どもの関係）

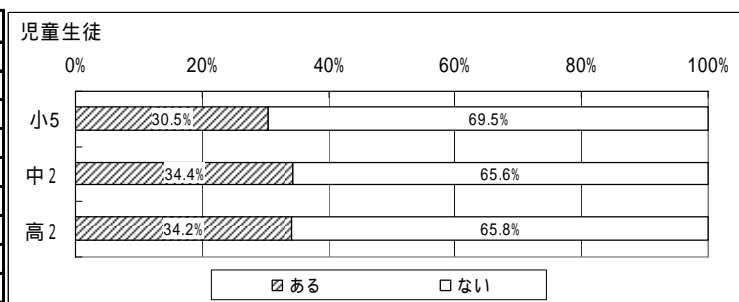
大人と子どもとのかかわりの中で、児童生徒が注意をされたり、保護者が自分の子ども以外の子どもの注意したりした体験を、次のように質問した。

児童生徒 質問(4)	今までに、家族や先生以外の大人から何か注意されたことがありますか。「1.ある」に答えた人は、どのようなことで注意をされたか、書いてください。
保護者 質問(2)	今までに、自分のお子様以外の子どもの注意したことがありますか。「1.ある」と回答した方は、そのことをお聞かせください。どのようなことを注意しましたか。どのように注意しましたか。

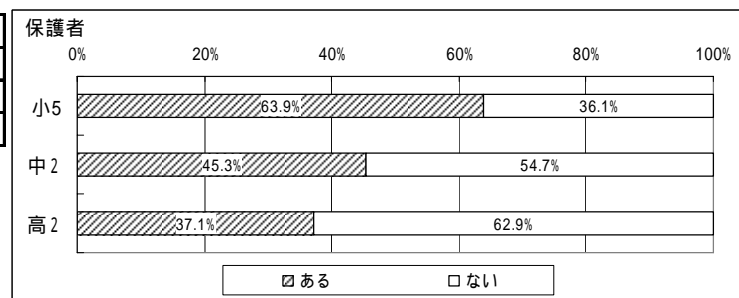
(1) 児童生徒への質問：「家族や先生以外の大人から注意されたこと」

保護者への質問：「自分の子ども以外の子どもの注意したこと」について

児童生徒		ある	ない	回答数
小5	男	76 39.0%	119 61.0%	195
	女	37 21.1%	138 78.9%	175
	計	113 30.5%	257 69.5%	370
中2	男	65 38.0%	106 62.0%	171
	女	57 31.0%	127 69.0%	184
	計	122 34.4%	233 65.6%	355
高2	男	66 32.8%	135 67.2%	201
	女	63 35.8%	113 64.2%	176
	計	129 34.2%	248 65.8%	377



保護者	ある	ない	回答数
小5	179 63.9%	101 36.1%	280
中2	112 45.3%	135 54.7%	247
高2	104 37.1%	176 62.9%	280



〔結果から見られる特徴〕

ア 児童生徒が、家族や先生以外の大人から注意されたことが「ある」と回答しているのは、どの学年も約3割である。

イ 保護者が、自分の子ども以外の子どもの注意したことが「ある」と回答しているのは、小5で63.9%、中2で45.3%、高2で37.1%である。

(2)児童生徒への質問：「どのようなことで注意されたか」

保護者への質問：「どのようなことを注意したか」、「どのように注意したか」について

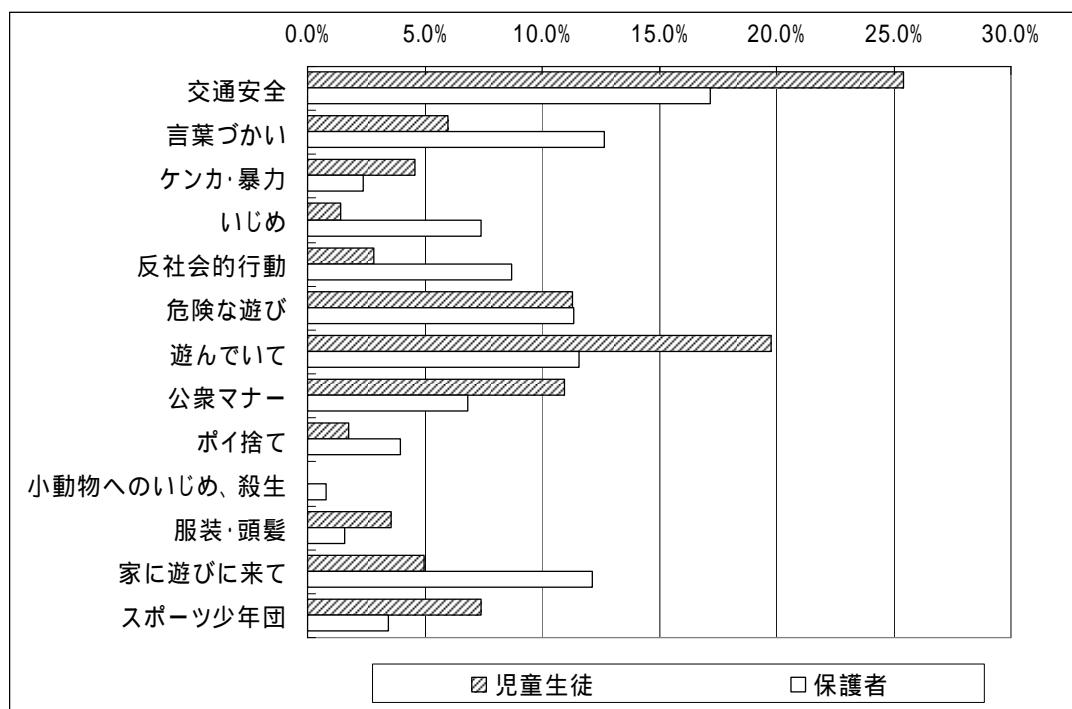
(1)で「１．ある」と回答したうち、児童生徒 339 名、保護者 374 名が、記述によりその内容を回答した。

記述のすべてを掲載することはできないので、回答の内容を分類し、下の表およびグラフに示す。一人の回答でも複数の内容が含まれているものは、それぞれの項目に別々にカウントしている。また、下記の分類に当てはまらないものは、省略した。

主な内容	児童生徒	保護者
交通安全 路上での遊び、歩行の仕方、自転車・バイクの乗り方 など	72	65
言葉づかい あいさつ、きたない言葉、目上の人に対する言葉づかい など	17	48
ケンカ・暴力 友達とのケンカ、暴力 など	13	9
いじめ いじめ、仲間はずれ など	4	28
反社会的行動 喫煙、飲酒、万引き、夜遊び など	8	33
危険な遊び 危険な場所での遊び、投石、花火 など	32	43
遊んでいて 騒いでうるさい、ふざけて危ない など	56	44
公衆マナー 電車やバスの中、図書館など公共の場での態度 など	31	26
ポイ捨て	5	15
小動物へのいじめ、殺生	0	3
服装・頭髪	10	6
家に遊びに来て 冷蔵庫を開けるなど勝手な振る舞い、片付けない、帰宅時間 など	14	46
スポーツ少年団 話を聞く態度、時間を守らない、さぼり など	21	13

注：児童生徒には「家族や先生以外の大人から」と質問したが、先生にしかられたと思われる学校での出来事が多く回答されていた。分類に当てはまらないと判断したため、児童生徒の回答数が回答者数に比べ少なくなっている。

グラフは、回答数の合計を分母とし、それぞれの内容の回答数の割合を示している。



〔結果から見られる特徴〕

- ア 児童生徒の記述を分類したが、「交通安全」、「遊んでいて」、「危険な遊び」については関連性が見られるものが多かった。路上での遊び、危険性、騒がしさなど、生活の中で大人が気付いて声をかけたことが、子どもたちの記憶に残っているようである。
- イ 保護者が自分の子ども以外の子どもを注意する場面は、自分の子どもの友人が家を訪れたときに、片付けや帰宅時間などについて注意している例が多い。中には、勝手に「冷蔵庫を開ける」、「お菓子などを勝手に食べる」など自分の家と他人の家の区別ができない、場をわきまえられないなどの子どもの様子が見られる。これらについて注意した保護者は、その子が家で指導されていないことに驚きと不安を感じている。

保護者からの記述による回答のうち、いくつかを内容ごとに分類し紹介する。

相手の立場になって考えさせる

自分が仲間はずれにされたらどんな気持ちになるのか考えてみてねと注意した。
 まちがってしまうことは誰にでもあるのだから、素直に謝る。人のせいにとりたくないように話した。いつも自分が逆の立場だったらどうか考えてみようと言った。
 自分の家とは違うのだから、人の家の引き出しや戸を勝手に開けてはいけないよと注意しました。
 その言葉、自分が言われたらどうかと話し、私だったらきずつくよと話しました。

人の迷惑を考えさせる

他の人に迷惑(自分は楽しいかもしれないが)がかかるということを説明した。

登校班で歩いているとき、年下の子がきちんと歩かずランドセルを引っばったり、班長や副班長が注意しても"いいじゃーん"と言って全然言うことを聞いてくれない子がいたので、「ちゃん、きちんと歩いてる？ もし事故にでもあったら、お父さんもお母さんもすごく悲しいよね。歩いてるほうがふざけていたとしても、悪いのは車のほうになっちゃうよね。そしたら運転してた人だって、かわいそうだよ。1人だけの責任じゃなくて、班全員、そしてたくさんの人が心配して、迷惑かけるんだよ。きちんと歩いて行こうね。できるかな?」と問いかけると"うん"と言って、その後きちんと並んで行ってるそうです。

家で、みんなで遊んでいるとき、友人の物（ゲーム）を無断で持ち帰り、みんなで捜しているのを知っているのにうそをついていたので注意しました。

友人が毎日毎日捜して歩いたこと。私も家中を毎日毎日捜したこと。それだけでも人に大変な迷惑をかけたんだということ、その上、うそをついたらみんなから信用をなくしてしまうこと、もっと真剣に考えないと絶対ダメだということ。そういうことが2回目だったので、1回目のとき、最も厳しくしかっていけば...と思い、なんとか直してほしいと思い夢中でしかつたと思います。

野外でのことだったので、「自分で片付けなかったら、誰が片付けたらいいの?」と声をかけたら持ち帰りました。

この場所は大声を出したり走り回ったりする場所ではないことを理解させ、みんな、どのようにしているか周囲を改めて観察させ、納得させた。

理由を話して聞かせる

「あなたが、今、したことはいいことか、悪いことか?」いじめた本人に聞きました。「悪いこと」といじめていた子が言ったので「悪いこととわかっているんだから、もういじめはやめてほしい」と言いました。いじめはなくなりました。

おもちゃのピストルに実際に玉を入れて人に向けてうっていた。(ビービー弾) 失明や大ケガにつながると注意した。

話し合う

わが家では遊びに行ったら PM5:00 までには必ず帰宅することになっています。友だちがわが家に来たときも同様の上遊んでよいとしていますが、その約束をやぶったとき、友だちも一緒に注意しました。皆を集めて約束を交わしたことから始まり、どうしてそうなったのか、またどういうところが悪いと思うのか、これからこのようなことがあったらどうしたらいいのか話し合いました。

ほめる

「食べたゴミはゴミ箱に捨ててね」と話した。帰りぎわに「きれいに片付けたね、ありがとう」とほめると、いつ来てもなおっています。

あいさつをさせる

思春期はなにごととも照れくささが入るが、基本のあいさつは一番大切にすべきだと伝えた。

我が身の安全を考えると注意できない

単刀直入に「乗車する 15 分前からきちんと並んで待っているのだから割込みはやめなさい!」 向こう側の席に座っていたので間を見て顔をゆがめ人差し指で口に当て「シー」というゼスチャーで暗黙の注意をした。

なお、どれも 20 年前のことである。その後注意した人を殺害する事件が散発するに及んで身の安全のため今はしていない

4 規範意識を高めるために

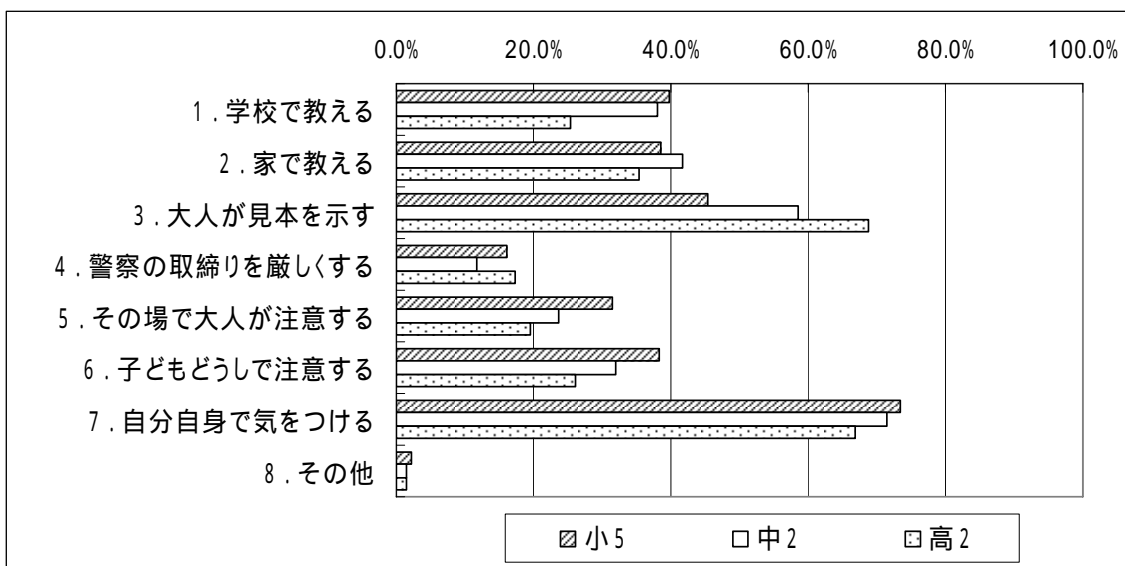
規範意識を高めるためにはどうしたらよいと思うかについて、児童生徒、保護者にそれぞれ次のような質問をした。

児童生徒 質問(5)	ルールやマナーを守ろうとする意識を上げていくためには、どうしたらよいと思いますか。三つまで選んでください。また、この他に意見がある人は、「8.その他」に意見を書いてください。
保護者 質問(3)	子どものルールやマナーを守ろうとする意識を高めるためには、どうしたらよいと思いますか。考えをお聞かせください。

(1)児童生徒の結果

児童生徒には、下に示す選択肢にて回答させた。回答数は表の通りである。

	小5	中2	高2
1.学校で教える	150	137	100
2.家で教える	145	151	139
3.大人が見本を示す	171	211	270
4.警察の取締りを厳しくする	61	42	68
5.その場で大人が注意する	119	85	77
6.子どもどうして注意する	144	115	103
7.自分自身で気をつける	277	258	263
8.その他	8	5	6
回答者数	373	361	390



各学年の回答者数を分母とし、各項目が回答された割合を示している。

〔結果から見られる特徴〕

- ア 「7．自分自身で気をつける」との回答は、どの学年も全生徒の70～75%と高い。また、「4．警察の取締りを厳しくする」の回答は、15～20%と低く、児童生徒は、ルールやマナーは罰があるから守るということではなく、自ら守るものであるという意識をもっている。
- イ 「3．大人が見本を示す」は、高2で最も多く、小5、中2では2番目に多い回答数である。
- ウ 小5と中2で、「1．学校で教える」と「2．家で教える」が、同じくらいの回答数である。
- エ 「5．その場で大人が注意する」、「6．子どもどうして注意する」は、学年が上がるにしたがって回答数が減少している。

「8．その他」に記述された主な意見を紹介する。

- ・(学校に)ルール違反、マナー違反での被害者を呼んで、ルール違反、マナー違反の大切さを教えてもらう。
- ・自分がそのことをやられたらどうなるか教える。
- ・自分に厳しくする。
- ・常に注意や気を付けることの運動を始める。
- ・ポスターなど作り、町中の電柱やいろいろなところにはったりする。
- ・みんなで協力して注意し合う(大人も子どもも)。
- ・大人は注意しながらも、自分でその行動をやっている。大人は良くて、子どもがダメというのは理解できない。
- ・それを警察官のまえでやらせるか実際に体験させる(いじめられるなど)。
- ・法律を改正し厳しく罰する。
- ・影響力のあるメディアを通してもっと注意を呼びかける。
- ・国自体が何かすべき。
- ・自分はよく平気でタバコをポイすてする大人をよく見ます。だから、まずは大人にルールやマナーを守ってほしい。
- ・社会全体で見直し取り組むべきだ。
- ・そのルールやマナーがある理由を納得できるように示す。

(2)保護者の結果

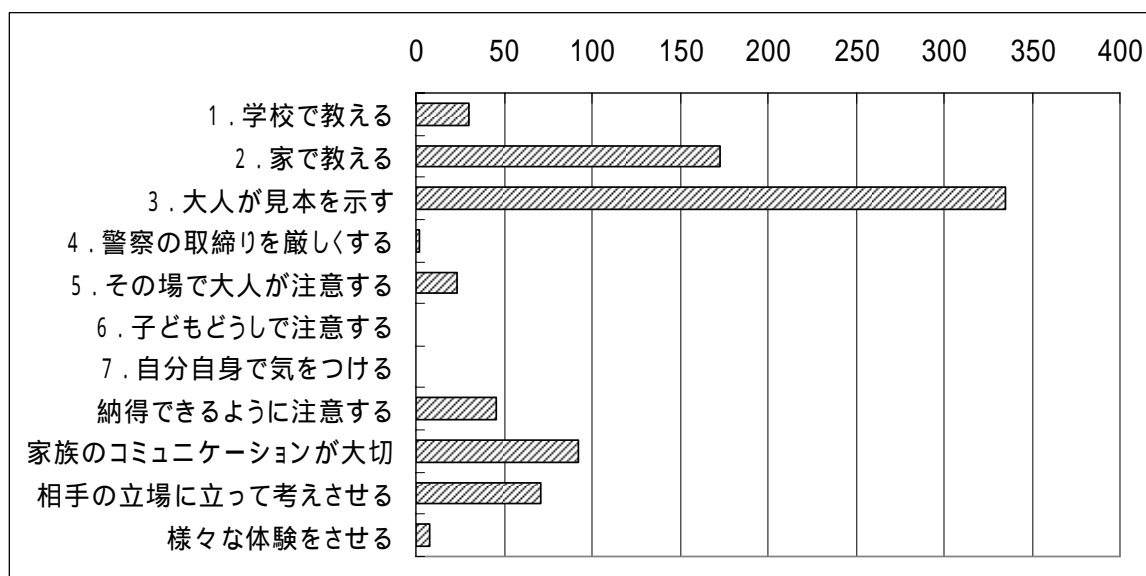
保護者 616 名が、記述により回答した。

記述のすべてを掲載することはできないので、回答の内容を分類し、下の表およびグラフに示す。一人の回答でも複数の内容が含まれているものは、それぞれの項目に別々にカウントしている。また、下記の分類に当てはまらないものは、省略した。

主な内容		回答数
大人が守る 示す 見本となる など	親が	168
	先生が	6
	(一般的に)大人が	161
大人が注意する 教える 言って聞かせる など	親が(家庭で)	173
	先生が(学校で)	30
	大人が(地域などで)	71
	警察	2
意識を変える	親の(親の教育)	37
	大人の	36
	社会(全体)の	13
	メディアの	5
	先生(学校)の	3
その場で注意する		23
注意の意図を説明するなど、納得できるように注意する		46
親子の会話、家族のふれあいなど、日頃から家族のコミュニケーションを図る		92
自分に置き換えて、相手の立場に立って、など、様々な観点から考えさせる		71
多くの人と接したり、様々な体験をさせたりする		8

児童生徒の結果と比較するために、児童生徒の回答選択肢に当てはめて整理すると、下の表およびグラフのようになる。

	保護者
1. 学校で教える	30
2. 家で教える	173
3. 大人が見本を示す	335
4. 警察の取締りを厳しくする	2
5. その場で大人が注意する	23
6. 子どもどうして注意する	0
7. 自分自身で気をつける	0
納得できるように注意する	46
家族のコミュニケーションが大切	92
相手の立場に立って考えさせる	71
様々な体験をさせる	8



〔結果から見られる特徴〕

- ア 「3. 大人が見本を示す」に当てはまる回答が最も多く、次に「2. 家で教える」に当てはまる回答が多い。
- イ ここでは1～7の選択肢に当てはめなかったが、「納得できるように注意する」、「家族のコミュニケーションが大切」、「相手の立場に立って考えさせる」も、広い意味では「2. 家で教える」に当てはまるとも考えられる。

規範意識を高めるための方法として保護者から寄せられた回答のうち、いくつかを内容ごとに分類して紹介する。

家庭でしつける

各家庭での親の話し合いも必要だと思う。根本的には各家庭の親のしつけだと思う。
やはり家庭における教育が基本であると思います。ちょっと昔は祖父、祖母が大きな役割を担っていたかと思いますが家庭の構成が変化してきた今は、それが困難であるかと思っています。時代が変化して共働きが主流を示してきた今、親と子のふれあう時間が大変少なくなってきました。今の生活を考えればやむを得ないことなのかも知れませんが、学校においても出来る限りこのような時間(道徳のようなもの)を設けていただければと思います。黒板の勉強も大切ですが、心の勉強はもっと大切だと思います。
過激な暴力シーンなどを見せない。テレビ、雑誌、テレビゲームなど情報が氾濫しすぎ。殺人ドラマや人をだまして楽しんでいるバラエティも子どもがテレビをみる時間に放送されている。大人も自分を甘えさせないように気を付けるべき。子どもの持つゲームの量が多すぎる。小学生の漫画にエッチなシーンがあまりに多くて困る。これではルールもマナーも守れといえない。言っても聞かない。うちでは殺人ドラマは見せない。マンガは買わない。ゲームは持たない。小学生には刺激が強すぎる。
何のためにルールやマナーがあるのかを話すこと。ルールやマナーがなければ他人に迷惑をかけるばかりでなく、自分も嫌な思いをすることがあることなどを話す。「今日こんなことがあって、お母さんはこんなふうに思ったよ」という様な感じで日常の出来事をよく話すようにする。そういう会話が普通にできるような雰囲気づくりを心がけています。毎日の会話の積み重ねだと思います。
親が子に関心を持ち、会話を多くする。
普段、テレビのニュースやバラエティを見ながら、子どもと一緒に話し合ったりしています。ニュースでは犯罪、バラエティでは言葉づかいや、極端(カゲキ)な高校生の服装、化粧。自然に自分の感想を話しながら何がいけないか言っています。
親子の会話を多くし、子どもの意識も最後まで聞き、小さなことも認めて、ほめて、喜んで期待をかける。毎日のあたりまえの生活の中であいさつや人に迷惑をかけないという基本的な行動(親の)が大切かと思っています。
子どもたちだけでなく大人も自分勝手な人が多いこの世の中でむずかしい問題ですが、やはり家庭で指導し、ゴミ拾いのボランティアや老人施設への訪問など人間として自分も何かの役に立つという体験をさせたらいいのではないのでしょうか。
シートベルト着用や、ゴミを捨てないなど多少めんどくさくとも一緒にいるときは、ひとつひとつ口で説明しながらマナーを守って来ました。行動を共にしていればいろいろな場面で教えられることが自然にできると思います。

家庭・学校・地域が連携して教育する

第一に「家庭」でのしつけとして、もう一度親が再確認する。学校生活の中では教師に頼まざるを得ないが「家庭」「学校」「地域」の連携が大切であると思います。

家庭での教育が一番良いと思うが、認識の度合いによって変わってしまうので、学校と連携で行ったらどうかと思います。比較的低学年からの方が良いと思います。道徳の時間などを活用して…。

道徳的な授業を増やして、意識を高める。小さい頃(幼少期)の家庭でのしつけをしっかり行う。

学級の時間に、地域の人たちと多く接することや、色々な大人の人に出会えることを学校に希望します。

大人が見本を示す

まずは、子どもにとって人生の先輩である大人が家庭内、学校内、近所づきあいの中で手本を見せる努力をする必要があると思います。ルールやマナーを守れなかったときその相手が例えば子どもであれ、謝罪の言葉、反省する態度を常に忘れず接することが大切だと思います。

大人がルールやマナーを守るべきだと思う。自己中心的な大人が増えた。子どもの教育も大切だが、親や大人達の考えを変える教育が必要に思う。

家庭で食事中や、リラックスしたときなど常に話題に出しながら、話してきかせたり、意見をいう時間を意図的に作る。身近な大人が見本を見せ、そのような社会になれば子どももそう思うと思う。

大人がまずは、まじめに一生懸命生きている姿を見せること。自分を大切にすることを常々意識させること。自分が愛され支えられている子は、まわりの人に対しても尊重する心や態度がもてると考える。家庭での子どもを温かく包む雰囲気重要だと思う。

新聞を見ても、テレビを観ても大企業が大罪を犯し、社会的地位のある人が悪いことをし、どの様な人間が偉いとか、尊敬できるとか教えにくい時代です。ルールやマナーを全てその様な大人の人々が破っているのです。親は静かに教えるしかありません。

学校においては先生や大人、社会としては、親や地域の人、何でも教える立場になったら、教える人もしっかりお手本になる様でなければいけない。子どもたちはすぐ矛盾に気がつきます。

大人が手本とならなければ説得力がないと思う。

大人の意識を変える

私もそうですが、親の意識改革と思っています。他の人にしかられたら、"ほらさんにしかられるから"ではなく、しかられるまでの過程が何だったのかを知るべき意識の改革だと思います。

大人の行動が大いに関係あり。大人の意識改革を。

注意することがためられる

一番近くにいる親・友達が気付いたら注意する。町で見知らぬ高校生に注意すると、正直、何をされるかわからないくらいにこわい。本当にひどくなる前に注意できたら良いと思う。

